

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 4 月 26 日現在

機関番号：30107

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2012～2015

課題番号：24520837

研究課題名(和文) 1950 - 1960年代のソ連における国家と社会の「協働」 その理念と実態

研究課題名(英文) Cooperation between State and Society in the Soviet Union in 1950s-1960s

## 研究代表者

松戸 清裕 (Matsudo, Kiyohiro)

北海学園大学・法学部・教授

研究者番号：10295884

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,800,000円

研究成果の概要(和文)：1950 - 1960年代のソ連は治安が悪く、犯罪との闘いが重要な課題だった。このため犯罪との闘いは、国家と社会の「協働」が求められた主要な分野の一つでもあった。犯罪との闘いにおける国家と社会の「協働」の主な活動形態の一つだった人民自警団に注目して、その理念と実態を明らかにした。

また、ソヴェト政権が国家と社会の「協働」を必要とした事情を描くことを目指して、1956年の第20回党大会当時のソ連の状況や人々の生活水準に関するソヴェト政権の厳しい認識を明らかにした。

研究成果の概要(英文)：In the 1950s-1960s the struggle against crime was one of the most important issue for the government and citizens of the Soviet Union because of a low standard of public safety. Therefore, the struggle against crime was one of the main fields where the cooperation between State and society was needed. This study revealed the ideal and actual activities of the cooperation, focusing People's Vigilante Brigades, one of the main form of the cooperation between State and society for the struggle against crime.

Besides, with the object of drawing circumstances that made the cooperation necessary, this study revealed understanding of the Soviet government on the social atmosphere and the living standard of the citizens at the time of the 20th Party Congress of the Communist Party of the Soviet Union in 1956.

研究分野：ソ連史

キーワード：ソ連 国家と社会 協働 フルシチョフ

## 1. 研究開始当初の背景

史料公開が少しずつ進んだことと関連して、スターリン死後の「雪どけ」期におけるソ連の社会のあり方に対する関心は近年世界的に高まってきている。ロシアでは、ソヴェト政権の政策が社会に与えた影響を論ずる研究が増えてきており、『社会と権力』など書名に社会を冠した資料集も出版されてきている。欧米でも、フルシチョフ期の社会の様子や私生活のありように注目した著作がここ数年に相次いで出版された。

しかし、文書館での史料の利用に制約が残っていることもあって、1950 - 1960年代のソ連の社会のあり方に関する研究は本格的にはまだ始められたばかりであり、今後の取り組みによって大きな成果が期待される研究分野であると言える。その際、政権が実現しようとした国家と社会の「協働」(国家の指導・統制下での国家と社会の協力関係)に注目することが、ロシアや欧米の研究に分け入り、オリジナリティを打ち出す有効な視角となる。なぜなら、ロシアの研究者は、国家は抑圧的なもので「協働」などフィクションに過ぎないという前提を持ちがちであり、他方で欧米の研究者は、スターリン期に関する社会史派の流れを汲んで社会や個人の国家からの自立性を強調しがちで、いずれも国家と社会の「協働」には関心を示さない傾向が見られるが、この「協働」は大いに注目に値すると考えられるからである。

## 2. 研究の目的

ソ連解体から約20年を経た今日、ソ連への関心は薄れ、国家権力が社会と人々を抑圧した全体主義国家とのイメージだけが残っているように見える。しかし、ソ連の社会はスターリンの大テロルさえ耐え抜き、「雪どけ」に際してその活力を示した。このため1950 - 1960年代の政権は、国家と社会の「協働」を実現しようとし、これを通じて共産主義建設に取り組もうとしていた。その

様子に注目すると、社会の活力は強く、国家の社会に対する統制は意外に弱かったようにも感じられる。本研究は、この点を意識しつつ国家と社会の「協働」の理念と実態を描くこと、これを通じて、一面的となりがちなソ連史像をより豊かにすることを目指すものである。

## 3. 研究の方法

本研究には4年計画で以下のように取り組むものである。

(1) 文書館史料や刊行資料の渉猟を続けつつ、これまで読んだ史料・資料を再検討して、犯罪との闘いにおける国家と社会の「協働」の理念と実態を描く。

(2) 研究分担者となっている基盤研究(B)での研究成果を活用し、ロシア史における社会の位置やそのあり方について分析する枠組みや概念をさらに練り上げる。

(3) 文書館史料や刊行資料の渉猟を続けつつ、生活水準向上のための取り組みにおける国家と社会の「協働」について、実態と国家の側の評価とを実証的に描き出す。

(4) 文書館史料や刊行資料の渉猟を続けつつ、選挙キャンペーンを中心とする政権と住民、国家と社会の間の合意形成の取り組みについて実証的に解明する。

## 4. 研究成果

国家と社会の「協働」が求められた主要な分野の一つであった「犯罪との闘い」に注目し、その重要な方策と位置づけられていた「社会による犯罪者の身柄引き受け」の理念と実態を、社会の自立性と国家による社会に対する統制の弱さを意識しつつ、実証的に描く論文を発表した。

また、本研究課題に取り組む以前から研究していた、やはり犯罪との闘いにおける国家と社会の「協働」の主要形態の一つであった人民自警団についても、本研究課題に取り組むなかで得た新たな史料に基づいてその実

態をさらに描いた学会報告をおこない、論文を発表した。

これと並行して、人民自警団員を殺害した犯人の恩赦請求をめぐるロシア共和国最高会議幹部会での審議を出発点にして犯罪との闘いが重要な課題だった当時のソ連の様子を描く論文を発表した。

1950 - 1960年代のソ連は、「共産主義建設」を目標として掲げたにもかかわらず、共産主義の基礎となる物財とサービスの提供が十分ではなく、生活水準の向上が政権にとっても人々にとっても重要な課題であった。1956年の第20回ソ連共産党大会当時のソ連の現状と人々の生活水準に関するソヴェト政権の厳しい認識を明らかにすることによって、国家と社会の「協働」を政権が強く求めた背景を描いた論文を発表した。

なお、選挙キャンペーンを中心とする政権と住民、国家と社会の間の合意形成の取り組みについて実証的に解明する課題についても研究をある程度進め、原稿を執筆したが、本研究課題の遂行期間内には刊行には至らなかった。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 4 件)

松戸清裕「ソ連共産党第二〇回党大会再考一九五六年七月一六日付中央委員会非公開書簡に注目して」池田嘉郎・草野佳矢子編『国制史は躍動する ヨーロッパとロシアの対話』(刀水書房、2015年10月)305 - 336頁

Kiyohiro Matsudo, 'Obshchestvennost' in the Struggle against Crimes: The Case of People's Vigilante Brigades in the Late 1950s and 1960s', Yasuhiro Matsui ed., *Obshchestvennost' and Civic Agency in Late Imperial and Soviet Russia: Interface Between State and Society*, Palgrave Macmillan, 2015, pp. 152-170.

松戸清裕「『共産主義建設期』のソ連にお

ける犯罪との闘いと身柄引き受け 国家と社会の「協働」の観点から」『ロシア史研究』第93号(2013年11月)47 - 70頁

松戸清裕「一九五〇～六〇年代のソ連 ある自警団員殺害犯の特赦申請をめぐる議論からみえてくるもの」中嶋毅編『新史料で読むロシア史』(山川出版社、2013年3月)242 - 259頁

[学会発表](計 3 件)

Kiyohiro Matsudo, Between State and Society: Soviet *obshchestvennost'* in the "Building Communism" era: at session "The Khrushchev Era Revised", in ICCEES IX World Congress, Makuhari. August 6, 2015

松戸清裕「冷戦と平和共存」ソビエト史研究会2015年度年次研究大会(専修大学サテライトセンター)パネル「ロシア革命とソ連の世紀」2015年6月13日

Kiyohiro Matsudo, Between State and Society: Soviet *obshchestvennost'* in the era of "Building Communism": at Conference: "A New Perspective on the End of the Soviet Union: Rethinking the Late Soviet Society". Nihon University, Tokyo. October 14, 2013

[図書](計 0 件)

[産業財産権]  
出願状況(計 件)

名称:  
発明者:  
権利者:  
種類:  
番号:  
出願年月日:  
国内外の別:

取得状況(計 件)

名称:  
発明者:  
権利者:  
種類:  
番号:  
取得年月日:  
国内外の別:

[その他]  
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

松戸 清裕 (Matsudo, Kiyohiro)

北海学園大学・法学部・教授

研究者番号：10295884

(2) 研究分担者

( )

研究者番号：

(3) 連携研究者

( )

研究者番号：